

平成19年度～20年度 大気環境学会 分科会一覧

分科会名	代表者 連絡先	設立目的	平成19～20年度活動計画
酸性雨	平木隆年 兵庫県立健康環境科学 研究センター 〒654-0037 神戸市 須磨区行平町3丁目1 番27号 Tel: 078-735-6911 Fax: 078-735-7817 E-mail: Takatoshi_Hiraki@pr ef.hyogo.lg.jp	大気環境中における「酸性雨」に 関わる動態的側面及びその陸域生 態系影響について学術的討論検討 を行うとともに、各種市民団体等 に対し酸性雨を通じた環境学習等 の支援を行うことにより、大気汚 染を含めた酸性雨による環境影響 の未然防止に寄与することを目的 とする。	①大気環境学会開催中に、主に研究 者を対象にした酸性雨に関連する諸 問題の現状についての討論会を開催 する。 ②環境保全・改善等に寄与するこ とを目的として活動している市民・教 職員及び研究者を対象に関西及び關 東地区で環境学習・環境教育を加味 した酸性雨講演会等を開催する。 ③研究者及び一般市民を対象とし て、酸性雨研究ニュース（印刷物） 及び同（電子メール版）を発行する。
都市大気 エアロゾ ル	長谷川 就一 国立環境研究所 〒305-8506 茨城県つ くば市小野川16-2 TEL: 029-850-2901 FAX: 029-850-2580 E-mail: hasegawa.shuichi@ni es.go.jp	PM _{2.5} やナノ粒子などの微小粒子の 健康影響、8都府市のディーゼル車 の運行規制、大気汚染防止法の改正 による VOC 規制など、都市大気エ アロゾルを取り巻く状況の変化や関 心の高まりが生じている。本分科会 は都市大気エアロゾルに対するこう した研究テーマについて、内外の研 究動向を共有化する場を提供し、共 同研究の企画・実施や新しい研究の 方向性を発信することを目的として 活動する。	平成19年度および20年度の大気環 境学会年会において、関連するテー マの講演・討論会を企画・開催する。 年会以外に、支部のエアロゾル部会 と共同するなどして、講演会やセミ ナーを開催する。 関連する他の分科会や、エアロゾル 学会など他学会において都市大気エ アロゾル分野で活躍する研究者と交 流する機会を持ち、情報交換や研究 活動の促進を図る。
室内環境	中井 里史 横浜国立大学大学院環 境情報研究院 〒240-8501 横浜市保 土ヶ谷区常盤台79-7 Tel: 045-339-4364 Fax: 045-339-4373 Email: snakai@ynu.ac.jp	人は生活の大部分を室内で過ごし ていることを考えると、人の健康 保護のみならず快適な環境という 観点からも室内環境問題は極めて 重要な課題と考えられる。本分科 会では、研究発表の場を共有する のみならず、大気汚染よりもさら に多くの領域にまたがる室内空気 環境全般に関わる諸問題に関して 会員相互の情報交流を図るととも に、研究者の連携による対外活動 等を積極的に推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> 年次総会における分科会（講演、 討論など） 分科会主催の講演会（種々の分 野間での研究交流を促進するた め、他分科会や他学会との共催 等も考慮する） 室内空気環境に関する資料集 （健康影響、測定、防止技術等） の作成 分科会主催による室内空気環境 に関するワークショップ などを実施する。
臭気環境	高橋通正 神奈川県環境科学セン ター環境技術部 〒254-0014 神奈川県平塚市 四之宮1-3-39 Tel: 0463-24-3311 Fax: 0463-24-3300 E-mail: m.takahashi@k-erc.pref.kana gawa.jp	大学、公的研究機関、行政機関、民 間研究機関、メーカーやコンサルタ ント会社など種々の機関で臭気に関 する業務に携わっている人々が集ま り、臭気の測定・評価方法、臭気発 生源での防・脱臭対策、悪臭行政施 策、香りの活用、嗅覚メカニズム解 明などに関し、お互いの情報交換、 あるいは共同研究を行って全国各地	大気環境学会年会時に全国規模の全 体集会を開催する。この他、別途適 当な時期に適切な場所において研究 会を行う。 平成19年度：全体集会の開催(平成 19年9月 於岡山) その他研究会 の開催 平成20年度：全体集会の開催 その 他研究会の開催

		に広がるネットワークを通じて臭気対策を推進し、この活動により快適な生活環境の保全に寄与する。	
植物	伊豆田 猛 東京農工大学大学院 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 Tel.: 042-367-5728 Fax.: 042-367-5728 E-mail: izuta@cc.tuat.ac.jp	植物とそれを取り巻く大気環境との関係を、植物の生育に関する諸条件を視野に入れて科学的に解明する。また、植物を通じた大気環境の実態評価、将来予測、改善ならびに緑の保全に寄与する研究を行う。 大学、国や地方自治体における研究機関・行政部署、民間企業の研究機関・環境関連部署などと積極的に情報交換や交流を行う。	本分科会は、これまでの研究活動を継続しつつ、講演会などを実施する。毎年 1 回、年会時に分科会集会として講演会を開催する。 毎年 1 回、関東支部植物影響部会との共催で講演会を開催する。平成 19～20 年度に、全国規模の講演会を 1 回開催する。
環境大気 モニタリ ング	星 純也 東京都環境科学研究所 〒136-0075 東京都江東区新砂 1 - 7 - 5 Tel : 03-3699-1331 fax : 03-3699-1345 E-Mail Hoshi-j@tokyokankyo. jp	環境大気汚染状況の調査、解析、予測、管理等に必要な大気モニタリングのための測定方法及び分析方法等を調査研究する、また自治体の環境管理、研究機関等にも反映される有効な環境大気モニタリング方法の調査研究を行う。 最近の話題である、PM2.5、VOC、地球温暖化、光化学オキシダント、新しい環境汚染として注目される有害化学物質等のモニタリングについての課題を重点に研究する。	平成 19 年度 有害化学物質の測定分析等に係わる基本的課題の調査研究、環境大気自動計測器の精度管理に重要な標準ガスの調査研究、環境大気測定・分析に関する調査研究。 平成 20 年度 環境大気に関する自動測定、モニタリングネットワークの調査研究。広域大気モニタリング手法等の調査研究等。 環境大気自動測定に係わる国際規格の調査研究。研究会を年 3 回程度の開催する。
自動車環 境	阪本 高志 独立行政法人交通安全 環境研究所 182-0012 東京都調布 市深大寺東町 7-42-27 電話 0422-41-3402、 Fax 0422-76-8604 Eメール t-saka@ntsel.go.jp	当分科会は、自動車による環境負荷を低減するための研究に意欲のある会員の参加の下に、ネットワークの構築と共同で参加できる研究活動を行い、 発生源から環境までの広範な研究を、より戦略的に進めることにより、研究成果の実効性、有効性を高め、 また、今後も自動車に依存した社会が継続することを前提とするならば、その利用方法の改善による環境負荷の低減についても、将来的には検討範囲に含める。	本分科会は、これまでの研究活動を継続し、急速に変化する自動車の環境問題に迅速に対応して、できるだけ早い環境負荷の低減と自動車技術等の変化に伴う新たな環境問題を未然に防止するための研究活動を実施する。 講演会 年会開催時の講演会を含め、年 2 回程度のシンポジウム等を開催 見学会 研究機関、対策事例等の見学及び講演会を開催
大気環境 文化財	古明地哲人 日本環境技術推進機構 〒279-0021 千葉県浦 安市富岡 2-2-13-505 TEL,FAX:047-354-04 11 E-mail:komeiji@popl ar.ocn.ne.jp	大気環境が文化財に及ぼす影響を評価する方法を開発し、文化財の保存に適した大気環境に関する研究を行う。また、文化財に蓄積された過去の大気環境に関する研究を行う。	初年度： ①分科会講演会（平成 19 年 9 月 5 日、岡山理科大学（第 48 回大気環境学会年会）） ②環境と文化の講演会の開催（平成 19 年 10 月 26 日、大阪府環境農林水産総合研究所（共催：環境と文化の会）） 次年度： ③文化財への影響調査に関する活動
健康影響	小林隆弘 東京工業大学	大気環境中のガス状および粒子状物質による健康への影響を未然に防止	平成 19 年度 大気中微小粒子状物質、揮発性化学

	〒226-5803 横浜市 緑区長津田町 4259S1 Tel : 045-924-5871 Fax : 045-924-5747 E-Mail : takakoba@iri.titech.a c.jp	するために、ガス状および粒子状物質の生体影響について科学的な知見を集積し、その健康リスク評価を行うことは重要な課題と位置付けられている。 健康影響分科会は、総合的にガス状および粒子状物質の発がん(変異原)性、免疫毒性、脳・神経毒性、生殖毒性などの新たな毒性面での動物実験、体内挙動、曝露評価手法の確立、疫学研究の推進、分子生物学など新たな技術を用いた健康影響評価手法やリスク評価研究の推進を目的として活動する。	物質や光化学反応生成物などのリスク評価をテーマに、曝露評価、健康影響評価、評価手法などの視点で研究討論、総括を行い会員への知見の普及をはかる。 平成20年度 平成19年度のテーマについて継続して研究討論を深めるとともに、大気環境中のナノ粒子やナノテクノロジーの急速な発展に伴い曝露される可能性のあるナノ粒子を対象としたリスク評価について研究討論をする。
発生源対策	小暮 信之 産業技術総合研究所 〒305-8569 茨城県つくば市小野川16-1 Tel 029-861-8284 Fax 029-861-8284 E-mail n-koguret@aist.go.jp	世界でトップの金額的実績を持つ我が国のODAについて、発展途上国への環境協力を今後どのような視点で行うべきか、という議論を一層深めるべきである。 発生源分科会は、以上の研究分野について、大学における環境専攻の学部・学科・研究室、国及び自治体における行政部署及び研究機関、並びに企業における環境担当部署と研究機関が会合をもち、関連するテーマについて研究発表すると同時に、情報や技術の交流を促すことを目的とする。	平成19年度(平成19年8月～平成20年7月) 学会開催時 講演会「大気汚染物質の排出量推定と今後の予測」 自動車環境分科会と共催 臨時講演会「バイオ燃料による大気質改善の将来展望(仮称)」 一般向け 自動車環境分科会と共催 平成20年度(平成20年8月～平成21年7月) 学会開催時 講演会「環境保全における企業と自治体の役割(仮称)」 臨時講演会「発生源微粒子(PM _{2.5})の測定と対策(仮称)」
都市大気環境モデリング	茶谷 聡((株)豊田中央研究所 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町長湫横道41-1 Tel : 0561-71-7724、 FAX : 0561-63-6119、 Email : schatani@mosk.tytlabs.co.jp	都市大気環境を対象にモデルを適用するにあたっては、①都市気象、②排出量インベントリ、③都市以外からの流入、を可能な限り正確に考慮する必要があるが、当該分野の研究者によってその扱いが異なるのが現状であり、情報交換や連携が充分ではない。このような背景において本分科会では、国内における都市大気環境モデル研究者間の情報交換・研究交流を促進し、当該分野における国内研究の活性化を目指す。	(a) 左記②排出量インベントリについては、国内においては標準的なデータベースが存在しない。また、③の都市以外からの流入について、越境輸送が都市大気環境に及ぼす影響が懸念されている。これらのテーマを中心に、研究集会やワークショップを開催する。 (b) 都市環境モデルの現状、問題・課題を明確にするために、モデルの相互比較プロジェクトの立ち上げを検討する。